

同伴ロボット

森野 水琴

彼はロボットの展示会場に居た。最近では技術も進歩して人間らしく見えるロボットが多くなった。中でも一台、女性ロボットが気に入った。微笑んで会釈すると、笑顔で会釈する。

名残惜しそうに会場を後に家路に着くと、彼女も同伴してくる。見つかりはしないかと見まわしたが、周囲の人たちには彼女が見えないらしい。

結局、一緒に家まで帰ってしまった。

展示会場から問い合わせの電話が来た。

秘密にして欲しいという彼女の視線に気づいたが、正直に事の次第を話した。

ロボットが同伴するなんて話は信じてもらえなかったが、回収に来ると言う。

束の間とはいえ同伴した間柄、愛着が湧いてしまったが、引き渡すことにした。

さもないと泥棒呼ばわりされてしまう。

彼女は連れていかれる。今にも泣きそうな顔をして。

きっと彼女は帰ってくるだろう。

なぜなら心を盗まれてしまったから。